

NGU 教養スタンダード

NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部の学生でも学べる《NGU 教養スタンダード科目》を開設しています。《NGU 教養スタンダード科目》は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような3つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

NGU 教養スタンダード科目の構成

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

＜人間理解＞、＜社会理解＞、＜自然理解＞、＜歴史文化理解＞、＜環境理解＞、＜身体理解＞、＜地域理解＞

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ＜人間理解＞、社会のしくみを考える＜社会理解＞、自然をさまざまな角度からながめる＜自然理解＞、人間や世界の文化や歴史を学ぶ＜歴史文化理解＞、地球環境や生態系について考察する＜環境理解＞、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ＜身体理解＞、まちづくりを多様な視点から考える＜地域理解＞の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（リハビリテーション学部、スポーツ健康学部は英語科目のみ）。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

科目表の見方

各学部学科の科目表（P70以降）は以下の構成であらわしています。

- 授業科目名：その科目の名称をあらわしています。
- 単位数：その科目の単位数をあらわしています。
「1」と表記されていたら1単位科目であり、「2」と表記されていたら2単位科目となります。
- 配当年次：その科目が受講できる年次をあらわしています。
「2」と表記されていたら、2年生以上の学生が履修することができます。
- ナンバリング：その科目の科目ナンバーをあらわしています。
- 必修、選択：その科目が必修科目であるのか、選択科目であるのかをあらわしています。
必修の欄に単位数が記載されていたら、その科目は必修科目となります。
- 選択必修科目：この欄に選択必修科目について記載をしています。
- 卒業要件：その学部学科の卒業要件をあらわしています。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

大学 COC 事業に関する 4 年間の学修について

文部科学省は現在、「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は Center of Community の略で、地域再生の核となる大学の意味です。

名古屋学院大学の取り組みの概要

本学の COC 事業はキャンパスの立地する名古屋市および瀬戸市を対象とし、両市が抱える地域の課題について、「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」のまちづくりを通じて解決をめざすものです。

「地域商業まちづくり」・・・商店街活性化などを通じて地域経済効果の増大をめざします。
 「歴史観光まちづくり」・・・歴史の掘起しや地域資源の発掘により歴史観光を推進します。
 「減災福祉まちづくり」・・・災害に強いひとづくり・まちづくりをめざします。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内での学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合もあります。

COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」				
② 課題解決型授業（PBL）				
③ 地域志向型科目				
④ 教育イベント「地域フォーラム」				

- ① 全学生が参加する **1 年生の教育イベント**として、「基礎セミナー」において、名古屋市または瀬戸市にかかわる「**まちづくり提言コンペ**」を実施します。
- ② **課題解決型学習（PBL）**として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・歴史観光・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開設するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」で継続受講することも可能です。
- ③ 全学部で、地域を学習対象とした**地域志向型科目**を充実していきます。
- ④ 全学生が参加する **3・4 年の教育イベント**として、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「**地域フォーラム**」を実施します。

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

COC+事業と 2018 年度のプログラム

「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を踏まえ、地域と大学の連携をより深く進め、さらに地域での就業につなげるプログラムが COC+（プラス）事業です。

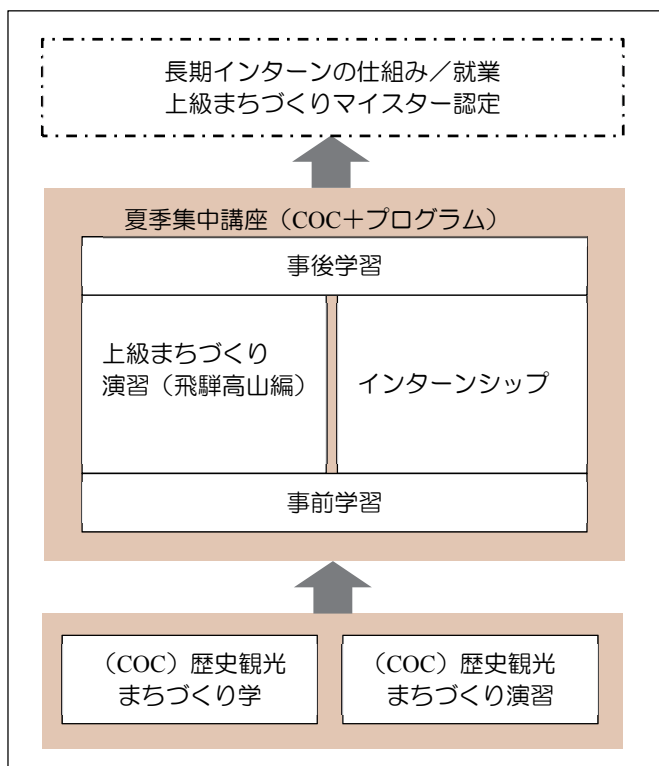
2018 年度 COC+プログラム

COC+のプログラムでは、大学 COC 事業で培った知識や経験を前段として、地域とともに将来の地域づくりを担う人材（上級まちづくりマイスター）を育成します。

2018 年度は、名古屋学院大学が COC 事業で地域づくりの題材とする「歴史観光」分野で開講します。古くから観光地域づくりで先進的な岐阜県高山市における観光地域づくり人材育成プログラムです。

COC+のプログラムは、COC 事業の「歴史観光まちづくり学」「歴史観光まちづくり演習」科目の単位を修得した学生または履修している学生が受講できます。名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスの両方の学生が参加可能です。

高山市における COC+プログラム「上級まちづくり演習」「インターンシップ」の流れと特徴



《プログラムの特徴》

- 将来的に観光産業をめざすなら、日本有数の観光地で国内外からも注目の高い高山市で、観光産業にかかわる実務者とともに実践的な演習を受けられます。
- 将来的にサービス産業をめざす学生にとって、単なるアルバイト目線ではなく、サービス産業従事者の視点をもつチャンスです。観光地ならではの宿泊産業の体験をとおして、サービス業におけるサービスとは何か、ホスピタリティとは何かを考え、表現するスキルが身につきます。
- 高山市には観光産業をはじめ、多くの分野の企業があります。飛騨高山や下呂などの出身の学生にとっては、自分の地域をよりよく知り、魅力を発見する機会になります。

マイスター認定制度

初級まちづくりマイスター

COC カリキュラムで開講中の「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」の授業では、「まちづくり学」「まちづくり演習」の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

上級まちづくりマイスター

COC 事業で初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

リハビリテーション学部 理学療法学科

教育目標（学則第3条の2より）

理学療法学科は、高い倫理観を根底にもち、人の尊厳を考えて、医療・保健・福祉の分野で活躍できる専門的職業人として理学療法士の養成を目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

リハビリテーション学部理学療法学科に所属する学生は、学部のカリキュラムを履修、学修することを通して以下の能力を身につけることができる。これに併せて、卒業に必要とされる所定の単位と要件を満たした学生に、リハビリテーション学部から学士（理学療法学）の学位を授与する。

知識・技能

- 1) 人間、社会、文化、自然等に関する幅広い知識を身につける。
- 2) 基礎医学領域の知識ならびにそれに基づく理学療法学と関連する専門領域の知識と技術を身につける。
- 3) 修得した知識と技術を用いて、指導者の指導助言のもとで患者・利用者本位の基本的理学療法を実践できる。
- 4) 最新の情報を収集・分析して理解し、論理的に思考する能力と技能を身につける。

思考力・判断力・表現力

- 1) 生起する様々な課題を正確に理解し、自らそれを解決するための方策を考えることができる。
- 2) 他者に対して、自分の考えを口頭や文章によつて的確に伝えることができる。

主体性・多様性・協働性

- 1) 謙虚に学び、他者を理解・尊重して、よりよい人間関係を築くことができる。
- 2) 学修成果を活用し、他者と協働して問題解決に向けて行動することができる。
- 3) 他の医療職および専門職と連携・協働して自分の役割を担うことができる。

態度

- 1) 自分自身の行動を省察することができる。
- 2) 理学療法士の社会的責任を理解して行動できる

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

リハビリテーション学部理学療法学科では、リハビリテーションに関わる科学的知識および根拠にもとづいた技術を修得し、医療、健康と福祉に貢献できる人材を養成することを教育の目標としている。また、リハビリテーションに関わる専門職としての役割を認識し、対象となる人々や社会のニーズに的確に応えられる理学療法士の育成と、社会に貢献できる医療・医学研究者としての素地を培うことを教育の基本に据えて、理性に裏打ちされた責任あるプロフェッションとして積極的に活動できる能力を養う。このような理念のもと、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるために、次のような教育内容、教育方針、学修成果の評価の方針にのっとり、カリキュラム編成と授業実施を行う。カリキュラムの体系的性、各授業

科目とディプロマ・ポリシーとの対応は、リハビリテーション学部理学療法学科のカリキュラム・マップおよびモデル・コア・カリキュラムで明示する。

教育内容

- 1) カリキュラムは《NGU 教養スタンダード科目》および《学科専門教育科目》で構成する。
- 2) 全学生を対象とした《NGU 教養スタンダード科目》では、「キリスト教概説」「キリスト教学」をはじめとして、大学の学修に必要な基礎的技能を学ぶ科目、キャリア形成に関する科目、日本語・語学・情報に関する科目、人間・社会・自然・歴史文化・環境・身体・地域に関する科目等を履修する。
- 3) 学科専門教育科目は、《専門基礎科目》、《専門実践科目》、《実践連携科目》で構成しており、系統的・体系的に科目を履修する。
- 4) 1 年次から 4 年次まで少人数の演習科目を配置し、担当教員がクラスアドバイザーとなり、専門的学修指導とともに生活上の助言・指導を行う。

教育方法

リハビリテーション学部の専門教育科目の多くは系統的に学修を進めなければ効果的な学修成果を得ることが困難であり、科目履修の順序指定を行っている。科目履修の順序指定とは、ある授業の履修を希望する場合、それ以前に指定された授業科目の単位を修得していなければ、その授業科目を履修することができないという制度で、リハビリテーション学部では（A の授業科目）→（B の授業科目）→（C の授業科目）の順序で履修し、それぞれの単位を修得していかなければならない。

その上で、学生の主体的な学びを引き出すため、ICT 技術の活用、少人数・双方向型の授業の推進を図るとともに、授業外の学修、国家試験対策等について適切に指導する。

学修成果の評価

- 1) 学科専門教育科目ではモデル・コア・カリキュラムに各科目で修得すべき必要最低限の知識を到達指標としてあげており、原則として試験等の成績および平常点等で客観的に総合評価する。
- 2) 医療現場における臨床見学実習、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは行動指標に基づいて達成度を段階的に評価する。
- 3) 学修成果として GPA の他、卒業研究や論文等で達成度を評価する。

アドミッション・ポリシー（入学受入方針）

医療の専門的職業人を養成する本学部では、すべての教育課程が「人間とは何か」「よりよく生きるとはどういうことか」という問いかけとその解答を求める行動に集約される。そのためにはさまざまな領域の学問に関心を持ち、現代社会が抱える課題に立ち向かおうとする気概を強く育てることが求められる。自己の生涯目標を明確にし、他者の生活の安定と健康の維持を常に意識することができる人間となることは、専門分野の知識と先端技術の飽くなき追求によって達成できる。同時に、深みのある人間となるためには、広い教養と地域・個人に固有の文化への理解が必要である。それらを統合的に身につけ、積極的に行動できるようなプロフェッションをめざして意識的に学修に励む学生を受け入れる。

求める学生像

以下の要件を備えた学生を求めている。

- 1) 建学の精神を尊重し、他者へのいたわりの精神を備えている者
- 2) リハビリテーション学部理学療法学科の教育目標に共感し、学業の修得に強い意欲をもつ者
- 3) 理学療法士として社会や地域の医療、健康、福祉に貢献しようとする高い志のある者

入学時までに身に付けるべき知識、能力等

- 1) 入学時までに学んだ教科や社会に関する基礎的、基本的な知識と技能
- 2) 基礎的、基本的な知識と技能に基づき、自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力・判断力・表現力
- 3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜

大学入学時までに培われた確かな基礎学力、リハビリテーション学部理学療法学科で履修する学修への適性、能力、意欲等を多面的・総合的に評価して入学者を選抜する。

1) 学力試験

本学独自の学力試験または「大学入試センター試験」の成績に基づき、リハビリテーション学部理学療法学科での学修に必要な基礎学力を有すると判断した者を選抜する。

2) 推薦試験

書類審査、面接、基礎学力試験または小論文等により、高等学校での成績や諸活動（特別活動、部活動、生徒会活動、取得資格等）の状況、リハビリテーション学部理学療法学科への適性や意欲等を評価する。

カリキュラムの概要

リハビリテーション学部理学療法学科のカリキュラムは《NGU 教養スタンダード科目》と《学科専門科目》からなり、《学科専門科目》は《専門基礎科目》、《専門実践科目》、《実践連携科目》で構成しています。カリキュラムと《専門科目》の特徴は以下のとおりです。

- 1) 《専門基礎科目》では、医学としての基本となる＜人体の構造と機構および心身の機能＞、人体機能の低下や亢進によって起こる疾病・障害を理解し、治療へと発展するための＜疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療＞、社会構造における医療の成り立ちを理解するために＜保健・医療・福祉とリハビリテーション理念＞を置き、さらに本学部の基本である＜基礎理学療法学＞＜理学療法のための評価学＞を配置して基礎的な知識、技術の修得をめざします。

＜人体の構造と機構および心身の機能＞には「解剖学 A・B」「体表解剖学実習」「生理学」「運動生理学」などを、＜疾病および障害の成り立ちと医学的診断と治療＞には「病理学」「内科学」「整形外科学」「臨床神経学」「精神医学」「小児科学」「リハビリテーション医学」などを、＜保健・医療・福祉とリハビリテーション理念＞には「リハビリテーション概論」「社会福祉概論」「ヘルスプロモーション論」などを配置します。＜基礎理学療法学＞には、「専門セミナーⅠ・Ⅱ」「臨床見学実習」「理学療法学概論」「運動学」「人間発達学」「医療統計学」などを配置し、＜理学療法のための評価学＞には「機能障害診断学」「活動制限診断学」「生体工学評価論」「痛み学評価論」「理学療法電気検査学」などを配置します。

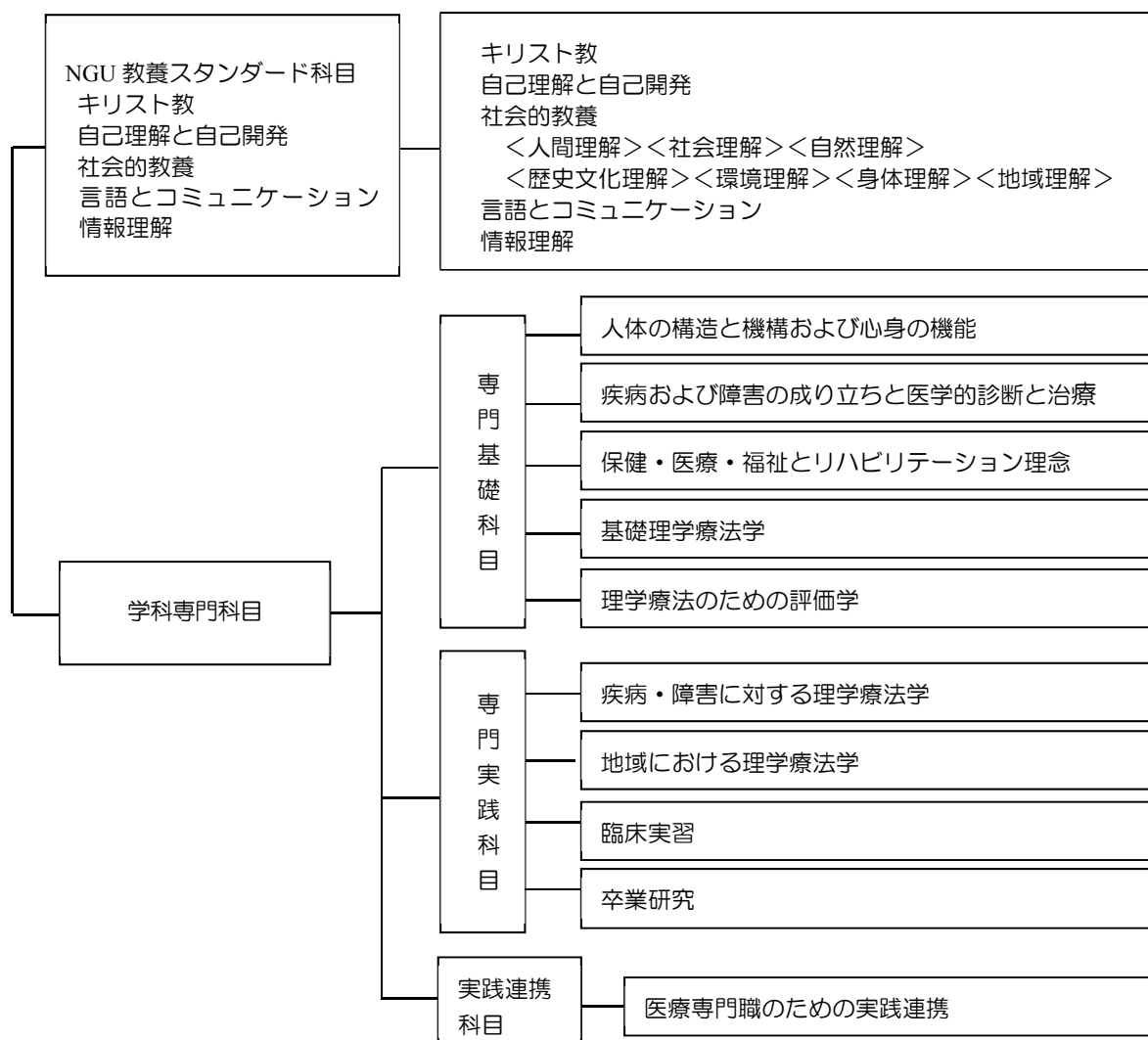
- 2) 《専門実践科目》では、本学部の目的である理学療法について実践から応用にいたるまでの幅広い科目群として、医療的な個々の疾病・障害を実践するための＜疾病・障害に対する理学療法学＞、医療以外の理学療法を実践するための＜地域における理学療法学＞を置きます。

＜疾病・障害に対する理学療法学＞には「運動療法学 A・B・C」「物理療法学」「日常生活活動学」「義肢装具学」「基礎運動療法学」「臨床運動療法学」「脊椎疾患運動療法学特論」などを配置し、＜地域における理学療法学＞には「地域理学療法学」「地域リハビリテーション演習」「リハビリテーション環境論」を配置します。

これらを応用する＜臨床実習＞として、理学療法評価を中心とした「臨床実習Ⅰ」、評価から治療計画を立案し実践する「臨床実習Ⅱ・Ⅲ」を配置します。さらに、＜臨床実習＞をより円滑に進めるための「臨床実習指導Ⅰ・Ⅱ」、臨床実習で体験してきたことが実践として活かされているかどうか、実践能力、思考能力を評価した上で、知識、技術の学生間共有、修正を試み、理学療法の総合的な実践力の修得をはかる「理学療法症例検討演習」を配置します。

- 3) ≪実践連携科目≫では、理論に裏打ちされたプロフェッションの育成を教育の基本方針にあげていることから、医療専門職としてのあるべき姿を培うべき科目群<医療専門職のための実践連携>を配置し、「理学療法研究法演習Ⅰ・Ⅱ」「理学療法実践演習」を配置します。

<リハビリテーション学部理学療法学科の科目の体系>



カリキュラム上の特色

① キリスト教主義教育による人間理解とケア精神の涵養

キリスト教主義による人間教育により、「人間らしく、よりよく生きる」ための精神を養い、「心身ともに健康で安らかに生きようとする人間を思い、ともに支え合いながら、かつ困難に直面する人びとの生活を支援できる精神ならびに高度な知識や技能を兼ね備えた人材」の育成をおこないます。また、これによって、人間理解を豊かにさせ、かつ困難に直面して生きようとする人間を思い、支援することのできるケア精神を涵養します。

② 現代を生き抜く専門職業人としての基礎的知識と教養および能力の修得

現代の専門職業人として不可欠な日本語表現力と英語コミュニケーション能力、ならびに高度情報社会に求められるコンピュータ活用能力を養い、あわせて現代人に必要な幅広い教養や基礎知識を修得します。

③ 専門職業人としての社会への適応能力の修得

保健・医療・福祉の多種多様なサービスの要求に適応できる基礎知識と疾病・障害に対する高度な医学知識に支えら

れた技術をもって幅広いリハビリテーション領域において対応できる専門的能力を修得します。

④ 高度な倫理観を備えた人材の育成

豊かで深い人間理解とからだやこころ、ひいては社会にいたる広範囲な健康および疾病の理解を基本に、生命に対する高い倫理観を備えた人材を育成します。

1) リハビリテーション学部の科目について

＜教育課程の基本方針＞

- ① 卒業所要単位数は 124 単位とします。
- ② 授業科目を《NGU 教養スタンダード科目》、《学科専門科目》のいずれかに配置し、教育課程の体系化・整合化をはかるとともに、学生には学習内容の系統性や学修領域間の関係および教育課程の階層性や専門領域外の分野の必要性を理解させます。
- ③ 瀬戸キャンパスで開講される《NGU 教養スタンダード科目》は、名古屋学院大学全体の学士力養成の基礎となる教養教育目標を具体的に提示しています。
- ④ 《学科専門科目》には、理学療法学科の専門特性に特化した科目を配置しています。
- ⑤ 学部の教育領域の性格上、実習、実地研修が重要であり、4 年間にわたる学修課程のバランスの適正化がはかられています。

別表としてあげているカリキュラム表は、理学療法学科の教育課程（カリキュラム）の編成方針にもとづき、それぞれの授業科目の単位数と配当年次を示したものです。このカリキュラム表に従って、各年度、各学期に開講される授業科目が決められ、「授業時間表」として提示されます。みなさんは、提示された「授業時間表」にもとづいて履修する授業科目を決め、自分自身の時間割表をつくることになります。その際、卒業要件や履修上の制限などを十分考慮する必要があります。

2) リハビリテーション学部の科目履修順序

系列的に学修を進めなければ効果的な学修成果を得ることが困難な授業科目について、次のとおり科目履修の順序指定をおこなっています。科目履修の順序指定とは、ある授業科目の履修を希望する場合、それ以前に指定された授業科目の単位を修得していなければ、その授業科目を履修することができないという制度です。これらの授業科目を履修するときには、（A の授業科目）→（B の授業科目）→（C の授業科目）の順序で履修し、それぞれ単位を修得していかなければなりません。

※ リハビリテーション学部履修規程細則 別表 2（諸規程 P228）参照

3) モデル・コア・カリキュラム

リハビリテーション学部の専門科目は基礎医学から臨床医学、理学療法学と多岐にわたっており、学生は何をどこまで学べばよいのか迷うこともあります。リハビリテーション学部では、学修の指標となるように、理学療法士をめざす学生が修得しておくべき知識や技術などの具体的項目を、それぞれの専門科目ごとに説明したモデル・コア・カリキュラムを作成しており、2017 年度からは冊子として学生に配布します。学生はモデル・コア・カリキュラムを学修の指標とし、シラバスを参考にして、授業の進行に合わせて自ら予習、復習することが大切です。

(1) 実習の構成と概要

臨床実習は、「臨床見学実習」「臨床実習Ⅰ」「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」「実習実技課題試験」で構成しています。「臨床見学実習」においては、実際の医療現場における臨床場面を見学します。「臨床実習Ⅰ」では、理学療法をおこなうための評価、治療プログラムの立案までをおこないます。「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」では、数種類の疾病や障害の症例を経験し、理学療法における評価、治療を実施します。

実習期間中は、本学の理学療法専任教員と臨床実習指導者が連携をはかり、実習を円滑に進めます。各実習終了時に、臨床実習指導者から実習評価を受け、学内で実習の総合判定をおこないます。

A) 「臨床見学実習」＜1単位 45時間 履修学期：1年次秋学期（集中）＞

実際の医療・介護施設における臨床場面を見学し、社会人・専門職としての態度を養い、対象者のもつ障害の多様性を認識し、対象とのコミュニケーションをはかります。さらに臨床実習指導者の指導監督のもとに、理学療法業務を理解し、検査・測定を中心とした理学療法評価や治療場面を見学し、学内での講義、実習の意義・重要性を認識します。

a) 実習の方法

1施設に1～2名の学生の受け入れを依頼します。臨床見学実習は5日間で1単位です。学生は臨床実習指導者の指導監督のもとで実習をおこないます。なお、実習前には「臨床見学実習指導」を学修します。

b) 実習の評価

- ① 全日程の4/5以上出席することで単位認定の資格を得ます。
- ② 臨床実習指導者は、実習評価表（資質、見学態度・姿勢、基礎知識などの評点制）に記載します。
- ③ 学生は、出欠表および実習報告書などを提出します。
- ④ 本学の理学療法専任教員が①～③をもとに実習の評価をおこないます。

B) 「臨床実習Ⅰ」＜4単位 180時間 履修学期：3年次秋学期＞

臨床実習指導者の指導監督のもとに、理学療法士の業務を理解し、学内での講義、実習で学んださまざまな検査・測定が対象を理解する上で、何がどのように必要かを学習し、実践します。さらに、実施する理学療法の適応について考察し、診療録などの記載方法について実践します。

a) 実習の方法

1施設に1～2名の学生の受け入れを依頼します。評価実習は1週間で1単位とし、4週間おこない4単位です。学生は臨床実習指導者の指導監督のもとで実習をおこないます。なお、実習前には「臨床実習指導Ⅰ」を学修します。

b) 実習の評価

- ① 全日程の4/5以上出席することで単位認定の資格を得ます。
- ② 臨床実習指導者は、実習評価表（資質、検査・測定、結果の分析・解釈、基礎知識などの評点制）に記載します。
- ③ 学生は、出欠表、症例報告書、実習報告書などを提出します。
- ④ 本学の理学療法専任教員が①～③をもとに実習の評価をおこないます。

C) 「臨床実習Ⅱ」（7単位）、「臨床実習Ⅲ」（7単位）

＜14単位 630時間 履修学期：4年次春学期＞

総合的に理学療法を体験し、リハビリテーションチームの一員としての役割を実践的に学びます。このため情報収集、対象者とのコミュニケーションに努めます。理学療法評価をおこない、問題点の抽出、目標設定、治療計画立案と基本的な治療方法を実践できる能力を養います。

a) 実習の方法

1 施設に 1～2 名の学生の受け入れを依頼します。「臨床実習Ⅱ」・「臨床実習Ⅲ」は各 7 週間 7 単位、計 14 単位です。学生は臨床実習指導者の指導監督のもとで実習をおこないます。なお、実習前には「臨床実習指導Ⅱ」を学修します。

b) 実習の評価

- ① 全日程の 4/5 以上出席することで単位認定の資格を得ます。
- ② 臨床実習指導者は、実習評価表（資質、理学療法の進め方、治療計画・立案、理学療法の実施、基礎知識などの評点制）を記載します。
- ③ 学生は症例報告と実習報告書などを提出します。
- ④ 「臨床実習Ⅱ・Ⅲ」においては、①～③および学内でおこなう症例報告・実習実技課題試験などをもとに、理学療法専任教員による総合的な判定をおこないます。

D) 臨床実習成果判定：「実習実技課題試験」

臨床実習で培ってきた知識・技術について、実践応用に関する演習をおこない、実践能力を評価します。評価に組み込む項目は医療面接、リスク管理および基本的検査測定とし、これらを含んだ課題を設定します。1 名の学生が模擬患者に対して、課題をおこない、適切に実施しているかを理学療法専任教員が評価します。

(2) 実習の履修前提条件

以下の実習を履修するための前提条件を設けています。

「臨床実習指導Ⅰ」の履修前提条件

- 2 年次終了時の成績によっては、3 年次以降に配当される《学科専門科目》のうち、《専門実践科目》および《実践連携科目》を履修することができません。
- 3 年次春学期までに配当された《学科専門科目》におけるすべての必修科目の単位を修得していること

※ リハビリテーション学部理学療法学科臨床実習規則（諸規程 P230）参照

(3) 臨床実習の単位認定

実践的、効果的な臨床実習を実施するために、以下のように単位を認定します。

- 「臨床実習指導Ⅰ」「臨床実習Ⅰ」の単位認定は、「臨床実習指導Ⅱ」「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」を履修した後、総合的に判定します。

演習科目について

1) 演習科目とは

リハビリテーション学部では、1 年次に「基礎セミナーⅠ」および「基礎セミナーⅡ」、2 年次に「専門セミナーⅠ」および「専門セミナーⅡ」、3 年次に「理学療法学研究法演習」、4 年次に「卒業研究」を配置し、それぞれの段階で少人数によるゼミナール形式の演習をおこないます。

- ① 「基礎セミナーⅠ」および「基礎セミナーⅡ」は《NGU 教養スタンダード科目》の中に置かれている科目で、導入教育および基礎教育をフォローするための科目です。

「基礎セミナーⅠ」では、有意義な大学生活を送るために、名古屋学院大学について理解し、大学生活を送る上での基本的な心構え（ソーシャル・スチューデント・スキル）を養います。また、大学での学習方法、レポートの書き方、個人やグループでおこなう発表方法などを身につけます。

「基礎セミナーⅡ」では、「基礎セミナーⅠ」で学んだ学習スキルを、理学療法士として実際に活用し応用でき

るように指導します。また医療、保健、福祉にかかわる職業人として不可欠な接遇、情報収集、プレゼンテーション、ディスカッションなどの能力と技術の向上、さらに学修に対する意識の向上をめざします。

- ② 「専門セミナーⅠ」および「専門セミナーⅡ」では、単に教養を身につけることを目的とせず、その過程において医療人としての態度を身につけることを目標としています。グループ学習の中でチーム医療を実践する上で必要となる態度を養い、《学科専門科目》間の結びつけに重点を置いて科目間の縦横のつながりから幅広い視野での思考が展開できるようにします。きめ細かな教育のため、学科専門教育担当の専任教員による少人数制とし、多くのクラスに分けて実施します。

「専門セミナーⅠ」では、前半に解剖・運動・生理学の復習を題材にして、グループ学習を実践し、その方法と重要性を学びます。後半には医学研究にかかわる基本的事項を学びます。また、「専門セミナーⅡ」では英論文の抄読・発表と症例検討をおこないます。症例検討では知識の復習のみならず、ロールプレイなどによる実践をととして理解を深めます。

- ③ 「理学療法学研究法演習Ⅰ・Ⅱ」では、専門領域で自らの関心を絞り込み、卒業研究テーマを模索しながら、情報収集、資料収集を通じて卒業研究テーマの基礎を学修します。
- ④ 「卒業研究」では、専門領域あるいは保健医療福祉に関する領域に係るテーマの中から、各自の関心、課題にもとづきテーマを設定するとともに、そのテーマに対し、それまでに得た知識・技術を用いた研究をおこないます。専門的研究の集大成として、研究成果を卒業論文にまとめます。

2) 演習科目の履修にあたって

学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題を解決しながら、能力の向上につとめるとともに、他者と積極的な交流をはかることにより、幅広い友人関係を育み、指導教員を含めた有機的なコミュニケーションを築くことが大切です。

3) 卒業研究の履修前提条件

「卒業研究」を履修するための前提条件を設けています。

- 「理学療法学研究法演習ⅠおよびⅡ」の単位を修得していること
- 3年次終了時の総修得単位数が90単位以上であること
- 卒業資格が得られる年度であること

履修モデル

リハビリテーション学部教育課程では科目選択の自由度はあまりなく、特に卒業に要する単位の7割を占める「専門科目」の多くは理学療法士の資格取得に必要な必修科目で構成されていて、履修の順番も指定されているので、理学療法学について系統的な学修ができるように履修モデルを設定しています。

○リハビリテーション学部理学療学科履修モデル（2016～）

科目 区分	選 必 修	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 数計	卒業 要件			
		春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位					
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	キリスト教	キリスト教概説	2	キリスト教	2									4	4単位			
	自己理解 と 自己開発	必修 基礎セミナー	2	必修 基礎セミナーⅡ	2									4	4単位			
		選択 キャリアデザインⅠa	2											2	2単位 以上			
	社会的 教養	必修 基礎英語1 英会話1 日本語表現 情報処理基礎	1 1 2 2	基礎英語2 英会話2	1 1	実用英語演習1	1	実用英語演習2	1					10	10単位			
選択 臨床心理学		2											2	14単位 以上				
学 科 専 門 科 目	専 門 基 礎 科 目	必修 解剖学A 解剖学B リハビリテーション概論 理学療法学概論	2 2 1 1	解剖学A実習 解剖学B実習 体表解剖学実習 生理学 運動学 臨床見学実習指導 臨床見学実習	1 1 1 2 1 1 1	運動生理学 生理学実習 病理学 内科学 整形外科 運動学演習 専門セミナーⅠ 機能障害診断学 機能障害診断学演習	1 1 1 2 2 1 1 1 1	臨床神経学 精神医学 小児科学 リハビリテーション医学 人間発達学 医療統計学 専門セミナーⅡ 活動制限診断学 活動制限診断学演習 生体工学評価論	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1				36	36単位				
			選択 生化学	1	公衆衛生学 予防医学	2 2	薬理学 国際医療事情	1 1	画像診断学	1	救命・救急医学 臨床検査学	1 1	老年医学 社会福祉概論 ヘルスプロモーション論 痛み学評価論 理学療法電気検査学	1 1 1 1 1	15	7単位 以上		
	専 門 実 践 科 目	必修					物理療法学 日常生活活動学 リハビリテーション環境論	1 1 1	運動療法学A 運動療法学A演習 運動療法学B 運動療法学B演習 運動療法学C 運動療法学C演習 義肢装具学 義肢装具学演習 日常生活活動学演習 物理療法学演習	2 1 1 1 2 1 1 1 1 1	発達障害学 地域理学療法学 地域リハビリテーション演習 臨床実習指導Ⅰ 臨床実習Ⅰ	1 1 1 1 4	臨床実習指導Ⅱ 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ	1 7 7	理学療法症例検討演習 卒業研究	1 2	42	42単位
			選択					基礎運動療法学 臨床運動療法学	1 1			神経疾患運動療法学特論	1			3	2単位 以上	
	実 践 選 修 科 目	必修 選択							理学療法研究法演習Ⅰ	1	理学療法研究法演習Ⅱ	1			理学療法実践演習	1	3	3単位
単位数計			21		18		14		18		16		15		4	121	124単位以上	

卒業要件

卒業要件単位の修得

リハビリテーション学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（124 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

科目大区分	科目小区分	科目領域	卒業要件	
			必修	選択
NGU教養 スタンダード科目	キリスト教		4単位	
	自己理解と自己開発		4単位	2単位以上
	社会的教養	人間理解、社会理解、自然理解 歴史文化理解、環境理解 身体理解、地域理解		14単位以上
	言語とコミュニケーション		8単位	
情報理解		2単位		
学科専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機構及び心身の機能	11単位	2単位以上
		疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療	10単位	2単位以上
		保健・医療・福祉とリハビリテーション理念	1単位	2単位以上
		基礎理学療法学	9単位	
		理学療法のための評価学	5単位	1単位以上
	専門実践科目	疾病・障害に対する理学療法学	16単位	2単位以上
		地域における理学療法学	3単位	
		臨床実習	21単位	
		卒業研究	2単位	
	実践連携科目	医療専門職のための実践連携	3単位	
必修・選択別小計			99単位	25単位以上
卒業要件単位数合計			124単位以上	

理学療法学科 NGU教養スタンダード

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
キリスト教					
キリスト教概説		2		1	AV1101
キリスト教教学		2		1	AV1102
自己理解と自己開発					
基礎セミナー		2		1	AW1101
基礎セミナーⅡ		2		1	AW1103
キャリアデザインⅠa			2	1	AW1301
キャリアデザインⅠb			2	1	AW1302
ボランティア学			2	1	AW1303
ボランティア演習			2	1	AW1304
インターンシップ			2	1	AW1306
社会的教養					
人間 理解	哲学		2	1	AX1301
	哲学史		2	1	AX1302
	心身関係論		2	1	AX1303
	心理学概論		2	1	AX1304
	キリスト教人間学		2	2	AX2301
	死生学		2	1	AX1305
	臨床心理学		2	1	AX1306
	倫理学		2	1	AX1307
社会 理解	社会学入門		2	1	AX1308
	宗教社会学		2	1	AX1309
	日本国憲法		2	1	AX1310
	現代社会と法律		2	1	AX1311
	暮らしと法律		2	1	AX1312
	現代社会と経済		2	1	AX1313
	会計入門		2	1	AX1314
	現代社会と福祉		2	1	AX1315
自然 理解	数学		2	1	AX1316
	実用統計学		2	1	AX1317
	化学		2	1	AX1318
	生物学		2	1	AX1319
	地球科学概論		2	1	AX1320
	地球物理学概論		2	1	AX1321
	人類学		2	1	AX1322
	物理学		2	1	AX1323
	科学史		2	1	AX1324
	生命倫理		2	1	AX1325

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
歴史 文化 理解	日本史		2	1	AX1326
	日本文化史		2	1	AX1327
	文化人類学入門		2	1	AX1328
	陶芸論		2	1	AX1329
	陶芸演習		2	1	AX1330
環境 理解	環境科学		2	1	AX1331
	生態学		2	1	AX1332
	地域生態論		2	1	AX1333
	地球環境学		2	1	AX1334
身体 理解	スポーツ初級A		1	1	AX1335
	スポーツ初級B		1	1	AX1336
	スポーツ中級A		1	2	AX2302
	スポーツ中級B		1	2	AX2303
	スポーツ上級A		1	3	AX3301
地域 理解	スポーツ上級B		1	3	AX3302
	地域商業まちづくり学		2	1	AX1341
	歴史観光まちづくり学		2	1	AX1342
	減災福祉まちづくり学		2	1	AX1343
	地域商業まちづくり演習		2	1	AX1344
	歴史観光まちづくり演習		2	1	AX1345
	減災福祉まちづくり演習		2	1	AX1346
	上級まちづくり演習		2	2	AX2304
言語とコミュニケーション					
日本語表現		2		1	AJ1101
日本語表現上級			2	1	AJ1301
基礎英語1		1		1	AJ1102
基礎英語2		1		1	AJ1103
英会話1		1		1	AJ1104
英会話2		1		1	AJ1105
実用英語演習1		1		2	AJ2101
実用英語演習2		1		2	AJ2102
情報英語演習1			1	2	AJ2303
情報英語演習2			1	2	AJ2304
手話			1	1	AJ1302
手話上級			1	1	AJ1303
情報理解					
情報処理基礎		2		1	AZ1101

理学療法学科 専門科目

授業科目名		単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
専門基礎科目	人体の構造と機構及び心身の機能				
	解剖学A	2		1	RL1101
	解剖学B	2		1	RL1102
	解剖学A実習	1		1	RL1103
	解剖学B実習	1		1	RL1104
	体表解剖学実習	1		1	RL1105
	生理学	2		1	RL1106
	運動生理学	1		2	RL2101
	生理学実習	1		2	RL2102
	生化学		1	1	RL1301
	公衆衛生学		2	1	RL1302
	予防医学		2	1	RL1303
	疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療				
	病理学	1		2	RL2103
	薬理学		1	2	RL2301
	内科学	2		2	RL2104
	整形外科	2		2	RL2105
	臨床神経学	2		2	RL2106
	精神医学	1		2	RL2107
	小児科学	1		2	RL2108
	救命・救急医学		1	3	RL3301
	老年医学		1	3	RL3302
	リハビリテーション医学	1		2	RL2109
	臨床検査学		1	3	RL3303
	画像診断学		1	2	RL2302
	保健・医療・福祉とリハビリテーション理念				
	リハビリテーション概論	1		1	RL1107
	社会福祉概論		1	3	RL3304
	ヘルスプロモーション論		1	3	RL3305
	国際医療事情		1	2	RL2303
	基礎理学療法学				
	臨床見学実習	1		1	RL1108
	臨床見学実習指導	1		1	RL1109
	理学療法学概論	1		1	RL1110
	運動学	1		1	RL1111
	運動学演習	1		2	RL2110
	人間発達学	1		2	RL2111
	医療統計学	1		2	RL2112
	専門セミナーⅠ	1		2	RL2113
	専門セミナーⅡ	1		2	RL2114
	理学療法のための評価学				
	機能障害診断学	1		2	RL2115
	機能障害診断学演習	1		2	RL2116
活動制限診断学	1		2	RL2117	
活動制限診断学演習	1		2	RL2118	
生体工学評価論	1		2	RL2119	
痛み学評価論		1	3	RL3306	
理学療法電気検査学		1	3	RL3307	

専門基礎科目

授業科目名		単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
専門実践科目	疾病・障害に対する理学療法学				
	運動療法学A	2		3	RL3101
	運動療法学B	2		3	RL3102
	運動療法学C	2		3	RL3103
	運動療法学A演習	1		3	RL3104
	運動療法学B演習	1		3	RL3105
	運動療法学C演習	1		3	RL3106
	発達障害学	1		3	RL3107
	物理療法学	1		2	RL2120
	物理療法学演習	1		3	RL3108
	日常生活活動学	1		2	RL2121
	日常生活活動学演習	1		3	RL3109
	義肢装具学	1		3	RL3110
	義肢装具学演習	1		3	RL3111
	基礎運動療法学		1	2	RL2304
	臨床運動療法学		1	2	RL2305
	脊椎疾患運動療法学特論		1	3	RL3308
	地域における理学療法学				
	地域理学療法学	1		3	RL3112
	地域リハビリテーション演習	1		3	RL3113
	リハビリテーション環境論	1		2	RL2122
	臨床実習				
	臨床実習Ⅰ	4		3	RL3114
	臨床実習Ⅱ	7		4	RL4101
	臨床実習Ⅲ	7		4	RL4102
	臨床実習指導Ⅰ	1		3	RL3115
	臨床実習指導Ⅱ	1		4	RL4103
	理学療法症例検討演習	1		4	RL4104
卒業研究					
卒業研究	2		4	RL4105	
実践科目連携	医療専門職のための実践連携				
	理学療法学研究法演習Ⅰ	1		3	RL3116
	理学療法学研究法演習Ⅱ	1		3	RL3117
	理学療法実践演習	1		4	RL4106

専門実践科目

実科実践科目連携

卒業要件

科目大区分	科目小区分	科目領域	卒業要件	
			必修	選択
NGU教養 スタンダード科目	キリスト教		4単位	
	自己理解と自己開発		4単位	2単位以上
	社会的教養	人間理解、社会理解、自然理解		14単位以上
		歴史文化理解、環境理解		
		身体理解、地域理解		
	言語とコミュニケーション		8単位	
情報理解		2単位		
学科専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機構及び心身の機能	11単位	2単位以上
		疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療	10単位	2単位以上
		保健・医療・福祉とリハビリテーション理念	1単位	2単位以上
		基礎理学療法学	9単位	
	専門実践科目	理学療法のための評価学	5単位	1単位以上
		疾病・障害に対する理学療法学	16単位	2単位以上
		地域における理学療法学	3単位	
		臨床実習	21単位	
		卒業研究	2単位	
		実践連携科目	医療専門職のための実践連携	3単位
必修・選択別小計		99単位	25単位以上	
卒業要件単位数合計			124単位以上	

オープン科目（こどもスポーツ教育学科、リハビリテーション学部を除く）

現代社会の諸問題はさまざまな学問分野が絡み合っており、学部の枠を越えた幅広い学際的な知識と能力が必要です。そこで、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた人材を育成するため、他学部が開講する《専門科目》を卒業要件単位として履修できるオープン科目制度を設けています。

多くの学部で専門教育科目の一部をオープン科目として他学部に公開するとともに、履修したオープン科目の単位を卒業所要単位として認定しています。オープン科目を学ぶことにより、学びの視野を広げ、専門分野の知識をいっそう深めることができます。

なお、オープン科目を履修する場合は、自分が所属する学部において必要な科目履修に支障をきたさないよう、授業時間割、履修上限単位数などに十分な注意を払うようにしてください。

オープン科目対象科目

- オープン科目は、各学部で指定された科目（開放科目）にかぎられます。
- オープン科目は、入学した年度によって異なります。履修を希望する場合は、該当する入学年度の「オープン科目（他学部履修科目）一覧」（毎年3月中旬頃、CCS 掲示板に掲示します）を確認の上、CCS で該当する科目のシラバスを照会し、担当者、曜日・時限、講義内容などを確認してください。また、授業教室については、授業を公開する学部の時間割を参照してください。
- 自分の履修するカリキュラムにある科目と同一名称の科目がオープン科目にある場合、その科目は履修することはできません。
- オープン科目は年度によって変更となる場合があります。

※ なお、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科・リハビリテーション学部はオープン科目の対象としていません。

履修可能学部・履修条件・履修可能単位数

学部	履修条件	履修可能単位数
経済学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.5以上であること ・2年次：30単位以上、3年次：60単位以上、4年次90単位以上を修得していること	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
現代社会学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
商学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	制限なし
法学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.5以上であること	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
外国語学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	半期2単位、年間4単位まで
国際文化学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
スポーツ健康学部 スポーツ健康学科	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	半期2科目まで

単位認定

《自由選択科目（フリーゾーン）》の科目として認定します。

履修方法

オープン科目の履修希望者は以下の手順で申し込みをおこなってください。

- ① 時間割開示時に、オープン科目一覧表で履修希望科目を決定する。
- ② 教務課窓口または瀬戸キャンパス総合事務部に、「オープン科目履修願」を記入し、提出する（オープン科目については CCS から直接履修登録できません）。

なお、受付期間はオープン科目一覧表とともに CCS に掲示します。受付期間以外は一切受けつけできません。

- ③ 受付期間終了後、履修希望人数を集計、調整をおこない履修登録画面へ反映させます。

注意事項

- 履修を検討したい科目のシラバスを必ず読んでから受講してください。
- オープン科目の履修はセメスターごとの履修制限単位数の規則に従います。
- オープン科目対象科目の開講曜日時限は、科目を提供している学部の日割にて確認してください。
- すべての科目に受講者数の定員を設けています。履修は、科目を提供している学部の学生を優先しますので、必ずしも履修願に記入した科目すべてが履修できるとはかぎりません。
- オープン科目の履修の取り消し、変更は一切できません。

他大学との単位互換

愛知学長懇話会の単位互換

愛知学長懇話会には、愛知県内すべての4年制大学が加盟しています。愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している大学に所属する学生は、他の大学で開講されるさまざまな科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度です。愛知県内の大学に在学するメリットのひとつとしてぜひ活用してください。

なお、単位互換向けに開放される科目の受講料は無料ですが、科目によっては実験・実習・研修などの実費が必要となる場合があります。詳細は、愛知学長懇話会のホームページ（<http://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/syllabustop>）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	- 各学部2年生以上 (以下、外国語学部で追加する資格) - 履修時に、学部卒業要件における修得単位数の合計が40単位以上 - 上記修得単位のGPAがおおむね2.5以上
履修期間	1セメスターまたは1学年とし、再応募することができる。
履修可能単位数	1セメスターあたり6単位、もしくは1学年あたり12単位までとする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	学則第17条の定めにより他の大学における授業科目の履修として、60単位を超えない範囲で単位を認定する。

※ 3月頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。

大学連携による「知域」拡大プロジェクトの単位互換

北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトは、加盟する6大学の開放科目を、eラーニングシステム「TIES(タイズ)」を利用して受講し、大学の単位として認められる制度です。詳細は、北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトのホームページ（http://www.tiesnet.jp/link/renkei_gp）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	各学部2年生以上
履修期間	相手先の連携大学で履修することのできる授業科目の開講学期とする。
履修可能単位数	1年度につき10単位以内とする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	本制度により認定できる単位数は合計30単位を上限とする。ただし学則第17条から19条に規定のある単位認定とあわせて、全体で60単位の範囲内とする。

※ 4月上旬頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。

ぎふCOC+事業推進コンソーシアムの単位互換

本学は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に取り組んでいます。（P59 参照）その一環として「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」に参加しており、参加大学間の相互の協力・交流・連携並びに各大学の特色ある授業科目の開放によって、教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的として、単位互換協定を結んでいます。

＜参加大学＞岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学

主に岐阜県を題材とした科目が中心となりますが、各大学の個性を活かした実践的な学びを通じて、社会人基礎力を向上させることができます。

詳細は、本学社会連携センターのホームページ（<https://www.ngu.jp/collaboration/>）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	各学部1年生以上。ただし1年生は秋学期のみとする。
履修期間	相手先の連携大学で履修することのできる授業科目の開講学期とする。
履修可能単位数	1セメスターあたり4単位、もしくは1学年あたり8単位までとする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	本制度により認定できる単位数は合計30単位を上限とする。ただし学則第17条から19条に規定のある単位認定とあわせて、全体で60単位の範囲内とする。